１７．救急科臨床研修プログラム

一般目標

生命や機能的予後に係わる疾病、外傷に対する迅速かつ適切な対応をするための知識、技術を修得し、不安を持つ患者や家族に対して、病態の説明を適切に行える真摯な態度を身につけることを目標とする。

行動目標

１）基本的事項

① バイタルサインの把握ができる
② 身体所見を迅速、的確にとれる
③ 重症度、緊急度が把握できる
④ プライマリーケアができる
⑤ 関連診療科に迅速、適切にコンサルテーションできる

２）必要な検査

①検体検査（血液、尿、動脈血ガス分析）、画像検査（超音波、単純 X 線、CT, MRI）、生理機能検査（心電図）を適切に指示し、その評価ができる

３）経験すべき手技

① 気管挿管を含む気道確保ができる
② 人工呼吸ができる
③ 心臓マッサージ、除細動ができる
④ 静脈路確保ができる
⑤ 採血（静脈血、動脈血）を実施できる
⑥ 注射法を実施し、緊急薬剤の投与ができる
⑦ 導尿法を実施できる
⑧ 胃管の挿入、胃洗浄と管理ができる
⑨ 軽度の創傷、熱傷の処置ができる
⑩ 局所麻酔法、皮膚縫合法、切開・排膿法が実施できる

４）経験すべき病態・疾患

一般的な一次救急患者（発熱、腹痛など）から急性冠症候群、脳卒中など緊急性の高い三次救急患者さらに心肺停止患者まで様々な患者が来院するため、積極的に多彩な患者を経験し、その病態の理解・把握に努める

５）救急医療における医師の役割の把握

救急救命士の行うプレホスピタルケアを理解し、院内コメディカルスタッフとのチーム医療を把握する